

少子化対策・女性の活躍促進特別委員会記録

開催日時 平成30年8月2日(木) 10:03～10:14

開催場所 第1委員会室

出席委員 7名

佐藤 光紀 委員長

山本 進章 副委員長

川口 延良 委員

大国 正博 委員

出口 武男 委員

中村 昭 委員

山村 幸穂 委員

欠席委員 2名

荻田 義雄 委員

米田 忠則 委員

出席理事者 橋本 こども・女性局長 ほか、関係職員

傍聴者 なし

議 事

(1) 当面の諸課題について

<会議の経過>

○佐藤委員長 当面の諸課題について、質問があれば、ご発言をお願いします。

○山村委員 それでは、1点のみ質問させていただきたいと思います。

県立高校削減に関する事で、県立高等学校再編計画が決定され、関係する多くの高校生達が、大変がっかりされています。今回、当事者である高校生の意見を聞かずに進める県教育委員会のやり方は、子どもの権利条約でもうたわれている子ども自身の意見表明権をないがしろにするもので、大変ゆゆしき事態だと思っています。

傍聴に来ていた高校生が、涙を流す様子を見て、本当に悲しい思いをしました。子どもたちに寄り添った丁寧な対応ができないのか、大変拙速過ぎるし、教育としてはないことだと思っています。

さらに、少子化対策という観点から見ても、子育てしやすい奈良県を目指していくのであれば、授業料などの負担の面からも、県立高校の門戸を広げて、誰もが入りやすくして

いくことや、奈良県の公立高校で学びたいと思えるように、教育条件、内容をよくしていくことが求められていると思います。生徒数が減少しているということですがけれども、この減少している機会にこそ、少人数学級にしたり、各学校の学区を検討して、高校を減らさない方法も考えるべきではないかと思っております。

今回、この計画で、少子化対策とは逆行しているように思いますがけれども、この点について、教育委員会ではどのようにお考えになっているのかお伺いしたいと思います。

○深田学校教育課長 高校再編のあり方が、少子化対策の推進の流れに逆行しているのではないかというご質問ですがけれども、少子化対策を推進する一つの方途として、学校の活性化が必要であると考えています。

このため、適正化推進方針で、特に少子化が進む地域において、地域とともにある学校づくりの推進による学校の活性化を進めることとし、その具体を実施計画においてお示したところです。

また、今後の生徒数減少に対して、各学校の生徒数を減じて高校数を維持すると、1校当たりの教員数が減ることにより、多様な教育課程の編成や、部活動の実施が困難になると考えられることから、学校の活力維持のためにも、各校の設立規模を一定維持することとした上で、適切な学校数について、10年ごとに見直しを行うことが必要であると考えているところです。

○山村委員 私は、子育てしやすい奈良県にして、奈良に住み続けたいと思う若者がふえてほしいと願っていますがけれども、今回のことで、高校生や保護者のお声をお聞きしましたけれども、もう奈良に住みたくない、こんな奈良から早く出ていきたいという声も聞いております。こういう思いをさせてはならないと思っております。

次に、他府県の例ですがけれども、もちろん奈良県でも取り組んでいるようですが、例えば島根県などでは、他府県から高校生を募集して、6年間で、この間3倍に入学生がふえている。この島根は過疎の県で、少ない、小さい、何もない県、だからこそ、そういう少なさを生かして、少人数学級で一人ひとりを大切にアットホームな教育を実践している。そういうことで多くの方が来られ、小さいけれども、きらり輝く学校づくりが大変人気を集めていると聞いています。部活動も大変多彩であります。

活力を維持すると先ほどおっしゃいましたが、やりようによっては、小さいからこそできることもたくさんあると思います。

本物の自然や文化や人情を体験して、ふるさととして子どもたちが心に刻み込まれる体

験を通じて、島根県への定住、あるいは大学に行ってもまた帰ってくる強い思いが育てられているということで、若者移住や定住に結びつくようになってきているという例もあります。

奈良県でも、県立高等学校再編計画は決まりましたけれども、実施についてはこれからやりますから、やはり子どもを中心にして、計画の見直しも含めて、いろいろな方途があるということで、広く意見を聞いていただきたいし、考え直してほしいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○深田学校教育課長 再編計画の見直しの検討についてですけれども、さきの議会で議決いただきました適正化実施計画全体を見直すということはありません。

なお、校名の変更を伴う学校については、現在、各校の教育内容の検討に入っているところです。この検討の中で、仮称としております校名について見直す必要がある場合は、検討を行うほか、予定しています学籍異動に関することについても、検討したいと考えているところです。

今後は、8月中に再度、教育委員会会議臨時会を開催して、9月の定例会に奈良県高等学校設置条例改正案等をお示しできるように進めたいと考えています。

○山村委員 基本、見直さないということで、一部、そういう検討もされているということですが、根本のところ、子どもたちの声をもっとしっかり聞いていただきたいということと、少子化について、さまざまな観点から考え直していただきたいということを要望しておきたいと思います。以上です。

○佐藤委員長 よろしいですか。

ほかになければ、これで質問等を終わります。

それでは、これもちまして、本日の委員会を終わります。